

東京土建一般労働組合
東京都新宿区北新宿1-8-16
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
ホームページ
http://www.tokyo-doken.or.jp/



定価 五十円
(年間購読料 千八百円)
購読料は組合費のなかに含まれています

けんせつ

印刷部数 106,600部 発行人・編集人 吉川 豊

018サポート 申請お忘れなく

都内在住の18歳以下の子どもに、1人月額5000円を支給する東京都の制度です。所得制限はありません。仲間と声を掛け合って、申請漏れのないように。

(関連記事8面)



右より事業主の小峰さん、杉岡さん、杉岡さんの紹介で新宿支部の一員となった板倉満さん、同分会所属で支部副委員長の隅田さん

新宿・余丁町 拡大もイベントも 活動する事業所の仲間たち

秋の！ 拡大月間 「人が一番の魅力」の組合 最後まで広げよう

事業所の仲間たちもがんばっています。新加入の一番の近道は、組合の良さを知る組合員の紹介ですが、それを実践している仲間がいると聞き、取材しました。

組合歴7年の杉岡敏也さんは、新宿支部余丁町分会の所属です。新宿支部副委員長の隅田祐太郎さんの声かけと、勤める外壁改修を行なう事業所の社長、小峰涼子さんが組合に近かったこともあり、3年前から活動に参加し始めました。この日は4年ぶりの大新宿祭りの住宅相談、木工教室、モザイクタイルです。

実は、この2年で7人以上加入させている杉岡さん。同業者、下請、プライベートの仲間にも声をかけています。自分自身が組合で他業種の人達と沢山知り合うことができ良かったと語ります。加入してくれた仲間も、仕事を紹介し合うような人間関係が作

八重洲、鉄骨崩落の重大事故 厚労・国交に聞き取り



省庁への聞き取りに参加する本部の小坂貴対部長 (右より2人目)

加入のコツは かしこまらず

7人も加入させるコツを聞くと「特にないです」。ただ、かしまった雰囲気ではなく、楽しくワイワイできるといふのをアピールしていると話してくれました。

この日は小峰さん、杉岡さんの他にも事業所から多数が参加。会社によりメリットがある

なしてではなく、ただ、組合役員と普段から仕事でつながって「仕事の流れの1環でやっている感じでしょうか」と話します。

イベント運営を担い、拡大の声かけにも積極的な事業所の仲間たち。隅田副委員長が「残り半月、分会目標のめどが立ったので、活動家育成も意識して行動していく」とまとめられました。

なり、4人が負傷する極めて重大な事態となりました。建設業の前提を揺るがすような深刻な事故で、元請は大林組です。

東京土建には、事故の一因は組み立て中の鉄骨を支える仮設土台「支保工」の強度不足であり、下請業者から警告の声が上がっていたが聞き入れられなかったとの、業界関係者からの情報が複数寄せられていました。

その後、マスコミも支保工強度不足を報じており、原因説明が待たれています。

東京土建は10月13日、山添拓参議院議員を通して厚労省・国交省からの聞き取りを行ない、小坂剛貴対部長、佐藤正雄本部副主任が参加しました。両省とも「捜査中であり、原因などについて明言はできない」としましたが、事故の重大性については組合と同じ認識を示しました。小坂部長は、「建設業の未来のために事故の根絶を」と強く訴えま

【本部・書記・佐藤正雄記】9月19日、中央区八重洲の建設現場で鉄骨崩落事故が発生。下請の従事者2人が亡く

10月1日からはじまったインボイス。52万人というオンライン署名では最多となる反対の声が集まるなかでの強行です。この間、上位会社から、インボイス登録をしない免

インボイス 「10%全部減額」↓違法 トラブルは組合へ

事業者に対して、10%の税控除ができないことを理由として、発注金額を減額する旨を合意する「覚書」の提出を求められるケース

業者が税額10%分すべてを減額することは違法です。また、2%を減額した上で未登録業者との取引で「事務負担が生じる」などと理由を合意する「覚書」

「10%全部減額」↓違法
法が禁止する「優越的地位の濫用」とされ、公正取引委員会の指導対象となります。

トラブル事例は、ぜひ組合まで報告ください。

朝やけ

■司会者の女性が真剣に語りかける。「約束して。ピンチになったら大きな声で応援して」。そして「何か変な音が聞こえる。ちょっと見てくる」と舞台裏にはけると、代わりに悪役たちが高笑いしながらステージに。これは10月の板橋とけんまつりのレンジャーショーの一コマ。司会と共に若手と思われる俳優達が会場を大いに盛り上げ、詰めかけた子供達は大喜びだ。

■これは、インボイスがつぶそうとしている文化の裾野のものではないだろうか。ショーは組合が地域アピールで開いたまつりの一環なので、観覧無料。ただ、ギャラがあまりに高ければ組合として呼べないし、そもそも演者がいなければ成立しない。文化は本来、高額を払うものじゃない。気軽に触れられなければ意味がないのだ。はつらつとしたアクション俳優たちが生み出した会場の笑顔は、何物にも代えがたいものだった。

■国民に還元するといった首相に期待したが、10月16日に出てきた与野案には所得減額はなく、あるのは大企業への減税案。経団連に至っては消費税増税を主張している。消費税の輸出還付金を年1兆7千億円ももらいながらどの口が言うのか。今の政治では、潤いある文化的な暮らしどころか、飢え死にしないのが精いっぱいだ。